

編入学試験 創作表現専攻 【出題意図・解答例】

創作表現専攻では、アドミッション・ポリシーのなかに「文芸を中心とした創造的な表現活動に携わり得る知識と実践的な表現技術とを修めるのに必要な基礎力を有していること」を掲げており、この方針に沿った課題文の選定及び出題をしている。

2026年度の編入学入試では、近代小説における言語表象がいかにして「私」という主体を立ち上げるのかという本質的なテーマを扱っている文献から出題した。問一は基礎的な語彙力を問う問題。問二・問三はオーソドックスかつ平易な文章読解問題で、課題文の文脈をしっかりと理解できているかどうかを問うている。問四は小論文で、課題文に示された筆者の立場を踏まえた上で、自分自身の認識や主張を、現代社会（ネット社会）の問題と交えながら説得的に述べられるかどうかを問うている。これらはいずれもアドミッション・ポリシーの「国語の学習や読書を通して、文章を筋道立てて読み取る読解力と、自分の考えを正しく明確に表すことのできる表現力を磨いてほしい」というメッセージに相即するものである。

問一 i 眉 ii 嘆 iii 行儀 iv 厄介

問二

（解答例）

三人の若い女の子の登場人物が、最初は「候文」で「兄さま」に手紙を書いているのに、一人が「言文一致」で書き出すと、残り二人もそれに続き、その途端に彼女たちの「私」が現れるという点が面白い。このことは、彼女たちが「言文一致の手紙」という虚構を通じて「妹」という別人格の「私」になり得ていることを意味していて、田山花袋の『蒲団』に通じるものがある。

問三

（解答例）

水野葉舟や田山花袋の小説における「私」と、その小説の中に引用された女性たちの「私」とは、ともに一人称の「言文一致」の文章によって仮構された、いわば「アバターとしての私」に過ぎず、両者の間には何ら差はないはずである。しかし実際は、前者は「文学」、後者は「ライトノベルズ」と、あたかもその価値に上下の差があるかのように区別されている。このことが著者にとって、ばかげていると思われるのである。

問四

(解答のポイント・採点基準)

- ① 筆者のいう「近代文学」と「ウェブ」の共通性(ともに「アバターとしての私」があふれている場所である)を、きちんと理解したうえで論述できていること。
- ② 「アバターとしての私」がはらむ問題点——それらの「私」は言語によって構築された「アバター」でしかない、にもかかわらず、その「私」を私たちは「本当の私」と思い込んでしまう——を問題化できていること。
- ③ ①と②を満たした上で、「ウェブ」という「場所」に関する解答者なりの立場(肯定的か否定的か)が示されていること。
- ④ 肯定的であれ、否定的であれ、「ウェブ」や「アバターとしての私」のプラス面とマイナス面との双方に目配りがなされたうえで、解答者の見解が理路整然と展開されていること。

編入学試験 食創造科学科 【出題意図・解答例】

食創造科学科において学ぶ上で必要と考えられる以下の素質や力をどの程度有しているかについて確かめることを狙いとしている。

(キーワード)

健康食品、サプリメント、栄養補助食品、健康補助食品、機能性食品、保健機能食品、特定保健用食品、栄養機能食品、特別用途食品、健康被害、食の安全性など

問1

- ・ 普段から身の回りの食と健康に関心を払い、健康食品やサプリメントと医薬品との違いなどについて、その知識や考え方を提示することができるか。

(解答例)

健康食品やサプリメントには明確な定義がないため、一般の消費者が認識している健康食品やサプリメントは、通常の食材から、菓子や飲料、医薬品と類似した錠剤・カプセルまで極めて多岐にわたります。ちなみに、米国では Dietary Supplement を「従来の食品・医薬品とは異なるカテゴリーの食品で、ビタミン、ミネラル、アミノ酸、ハーブ等の成分を含み、通常の食品と紛らわしくない形状（錠剤やカプセル等）のもの」と定義し、またヨーロッパでも同様のものを“Food supplement”と定義しています。このように性状や形態で明確に区別できるような定義を設定することが必要であると考えます。

(259字)

(採点基準)

- ・ 課題点、対策案が記載されている
- ・ 内容が具体的である
- ・ 内容が実現可能である
- ・ 文字数の不足、誤字脱字は減点の対象とする

問2

- ・ 健康食品に関連した健康被害が起きることから、食の安全性についての知識とその課題についての解決策を自分なりに考え、提示することができるか。
- ・ 問題の意図を正しく把握し、他人に伝わる明瞭な文章で論理的に表現することができるか。

(解答例)

過去に報告されている健康食品が関連した健康被害の事例から、健康被害が起きる要因としては、①製品の品質や偽装表示（違法に医薬品成分を添加、有害物質の混入など）、②不適切な利用方法（医薬品的な利用、効果を過大評価し有害影響を過小評価して長期間、大量に摂取したことなど）、③利用対象者の体質等（高齢者、幼児、妊婦、アレルギー体質、病者の利用）、④医薬品や他の健康食品との相互作用（医薬品の主作用の減弱や副作用の増強など）があげられます。それらは複合的に影響し、テレビや雑誌、インターネットを介して出されている不確かな情報の氾濫が、健康食品に対する誤解や、健康被害の発生につながっています。このことから、これらの要因を取り除くことが大事であると考えます。具体的には、健康食品の安全性・有効性情報 (<http://hfnet.nih.go.jp/>) に 2004 年 8 月～2008 年 12 月までに掲載された違法製品の摘発理由をみると、88%が医薬品成分の混入であり、うち 11.8%で健康被害が発生していました。混入されていた主な医薬品成分は強壮・強精効果として、シルデナフィル、タダラフィル、これらの類似化合物、肥満抑制効果としてシブトラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、甲状腺粉末、エフェドリン、センナの小葉、ヒドロクロロチアジド、フロセミド、フェノバルビタール、マジンドール、フェノールフタレイン、ヨヒンビン、ブメタニド、血糖に効果があるものとしてグリベンクラミド、関節やリウマチに効果があるものとして、デキサメタゾン、インドメタシン、プレドニゾン、メフェナム酸などです。また、摘発製品の入手経路の大部分は個人輸入で、その形状はカプセルや錠剤が半数以上を占めていたことから、健康食品やサプリメント、医薬品を購入する場合は、個人輸入でなく、薬局や薬店など信頼のおける店舗で購入するようにするべきであると考えます。(766 字)

(採点基準)

- ・ 課題点、解決法案が記載されている
- ・ 内容が具体的である
- ・ 内容が実現可能である
- ・ 文字数の不足、誤字脱字は減点の対象とする

問1

問題の文章を読み、理解しているかを確認するため、著者が独自の意味合いを込めた用語である「グローバル人財」に関する説明を、著者が書いている順に箇条書きすることを求める。

(解答例)

- 1 国内と海外の間でマネーが動くこと(＝グローバル・マクロ)を的確につかみ、どちらにどれだけの力を企業として配分して行くべきなのかを自ら考え、自分で前に進んでいく人財。
- 2 未来の社内リーダーとして、企業経営者が、一刻も早く育てて行くべき人財。
- 3 米欧があれやこれやと創りこみ、流布してきた「コンセプト」から覚醒し、自分で考え、自分で動くことが出来る人財。
- 4 我が国企業が、今後、ますます必要としてくるはずの人財。
- 5 学生である読者が目指すべき人財。
- 6 我が国企業のニーズとマッチする人財。
- 7 グローバル人財を目指す者にとって、何も高い授業料を払って米欧の有名ビジネス・スクールで学ぶ必要は無い。

解答文字数が指定文字数360字の8割、すなわち、288字を超えていない場合、大幅な減点とする。

問2

日本社会において、通常、使用されている「グローバル人材」について、観点を設定し、自分の言葉で説明することを求める。

(採点のポイント)

問題文で指示されている通り、分析する観点、基準を3つ以上設定し、それらの観点、基準から、「グローバル人材」について考察することが求められている。グローバル人材の3つの特性として、たとえば、下記3点から考察を加える。1. 異文化理解力と日本人としてのアイデンティティ 2. 主体性・積極性(チャレンジ精神、協調性・柔軟性など含む) 3. 語学力・コミュニケーション能力。

解答文字数が指定文字数600字の8割、すなわち、480字を超えていない場合、大幅な減点とする。

問3

著者が書いている「グローバル人財」と自分が考える「グローバル人材」を比較検討する考察を、自分の言葉で書くことを求める。基準を設定して、研究対象と比較対象を比較し、共通点と相違点を見つけ出すことが、事実確認の第一歩であるため。

(採点のポイント)

「グローバル人財」が身に付けている力として、著者は、(1)グローバル・マクロ（国際的な資金循環）を的確に把握する力、および(2)自分で考え、自分で行動する力を、重視している。解答には、上記2点との対照論述が必要である。

社内、組織内に育っている一群のグローバル人材の内、一握りの生え抜き、精鋭を、「グローバル人財」と位置付けることが出来るのかもしれない。

解答文字数が指定文字数400字の8割、すなわち、320字を超えていない場合、大幅な減点とする。

編入学試験 ビジネス学科 【出題意図・解答例】

大問 1

ビジネス系の学部において学修する基礎的な事項について、その内容を充分理解し、定められた文字数で的確に説明できるかを問う。幅広い論点から出題するために、問題記号 A は経営学分野から、記号 B は会計学分野からの出題とし、どちらか 1 つを選択して解答する形式である。

(採点基準)

<問題記号 A・B 共通>

- ・文字数が解答用紙の 9 割 (540 字) に達しない場合は、その文字数に応じて減点を行う。
- ・誤字脱字等は、1 箇所ごとに減点を行う。ただし、同じ誤り等で重複して減点は行わない。

<問題記号 A>

- ・多角化戦略を採用する動機・目的 (リスクの分散、成長機会の拡大など) についての的確に説明し、適切な事例をあげているか
- ・多角化戦略の代表的な類型 (関連多角化・非関連多角化など) についての的確に説明し、適切な事例をあげているか
- ・多角化戦略について、論理的かつ読みやすく論述できているか

<問題記号 B>

- ・売上総利益、営業利益、経常利益、税引前当期純利益、当期純利益という 5 つの利益について、適切な説明ができているか
- ・損益計算書における 5 つの利益の順序や、我が国においては段階別に利益を示すことが定められているなど、損益計算書全体を通した利益の説明ができているか

大問 2

ビジネス学部では経済社会のグローバルな側面に焦点を当てた専門教育科目も多く配置されているため、ビジネス系の学部において使用する専門用語について、日本語・英語の両方で理解しているかを問う。

- ① 国内総生産 ② 多様性
③ tariff, customs ④ investment ⑤ productivity